

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103399		
法人名	株式会社はるす		
事業所名	グループホームはるすのお家・和歌山(しおさい)		
所在地	和歌山県和歌山市福島486番地1		
自己評価作成日	令和5年10月11日	評価結果市町村受理日	令和5年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3070103399-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階
訪問調査日	令和5年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が今まで過ごされていた環境や生活状況とかけ離れない様に、可能な限り時間をあわせて頂いております。名前の通りお家にいるをモットーに気兼ねなく、笑って過ごせる場所の提供を心がけています。スタッフの年齢層も20代から70代と幅広く、入居者様ごとに適切なケアや会話に対応していけると思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

個人の住宅やアパート等の中に立地している開設から約20年のホームである。職員の年齢層は幅広いが、職員からは、お互いに話しやすく、協力して仕事ができ、働きやすいとの声があり、職場環境の良さが確認できた。ホーム長、管理者、職員は、入居者本位の個別ケア実践の向上に努め、ホーム内の当ユニットでは、要介護度が重度の入居者も含まれる中、お茶の葉を入れる等の家事の手伝いをしたり、テレビを見たりして、各々が混乱なく穏やかに過ごされていた。コロナ禍においては、家族との面会が困難な場合があり、入居者の日々の暮らしがわかりやすいように、本人の写真や職員のコメントを添える等工夫したホームからのお便りを送付して、家族の安心感が伺えた。ホームでは、コロナ禍が緩和された今後、外出支援や地域との交流等について、新たな取り組みを検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enter)

(しおさい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を作成、掲示し、管理者・職員で理念を共有して実践に繋げている。	管理者、職員で意見を出し合って理念をつくり、みんなが見やすいところに掲示している。その人らしく生活ができるように、新人職員には丁寧に指導する等して、共有・実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍は地域との交流が困難であった。今年度は地域清掃や地域の催しにも参加している。	地域の自治会に加入し、地域清掃を行っている。民生委員が交代したので、新たな連携を検討している。また、社会福祉協議会を通じて、コロナ禍前に実施していた地域のボランティアの利用を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流は、挨拶や世間話は行っているが、認知症についての相談や地域の方に向けての発信は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議は文書開催のみであった。8月よりホームでの開催を予定していたが、ホームの入居者様がコロナウイルス陽性となり、断念する結果となった。	コロナ禍において、運営推進会議は2か月に1回文書開催であったが、コロナ禍が緩和されたことから、10月に実施、地域包括支援センター職員、民生委員が参加し、入居者、その家族の意見を考慮して、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があった際や、受診の報告等で相談・報告をさせていただいている。	要介護認定に係る申請、調査時に連絡をしている。また、短期入所サービス開始時には市役所に相談し、利用希望があれば、サービスの提供を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームにて虐待防止・身体拘束禁止・人権擁護委員会を作成しており、年4回の研修を通じて、身体拘束について理解を深めている。	年4回ホーム内で研修を実施し、玄関の施錠を含めて身体拘束等について職員間で共有、実践している。今後は、外部研修への職員派遣を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームにて虐待防止・身体拘束禁止・人権擁護委員会を作成しており、年4回の研修を通じて、虐待について理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームにて虐待防止・身体拘束禁止・人権擁護委員会を作成しており、年4回の研修を通じて、権利擁護について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の際に、不安であることや疑問については説明させて頂いている。また、契約の前に契約書を郵送させていただき、事前にご一読いただいてから契約の際に疑問点が無いかを尋ねさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今までは運営推進会議にて、利用者様や家族様の意見を伺っていたが、コロナ禍のおりは文書開催となつてからは、要望等が運営部分ではなく面会希望等になってしまったが、極力面会出来るように対応はさせていただいた。	運営推進会議実施において、全家族に運営に関するアンケートを送付し、出てきた意見は運営に活かせるように取り組んでいる。また、電話連絡時等においても、家族が意見を表出できるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や年2回の人事考課の際に面談を行い、働き方の希望や問題点について話し合える時間を設けている。また、普段から相談しやすい様に心がけている。	管理者等は、職員が日常的に意見を述べやすい関係性作りに努めている。認知症の周辺症状の増悪等についても、職員の意見を反映させ、住環境等の改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の人事考課の際に面談を行い、希望や問題点について話し合える機会を設けている。就労年数や資格取得、社員登用にて給与が上がるシステムを作っており、向上心を持って働いてもらえるように思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度の人事考課の際に面談を行い、希望や問題点について話し合える機会を設けている。法人外の研修については、必要最低限の研修以外はあまり行えていないが、内部研修については必要だと思う物を随時取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ以降の外部研修は必要最低限となつてしまっているが、認知症実践者研修等の同業他事業所と接する機会は必要だと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みを頂いた後に、本人様の所へ訪問させて頂き、ご本人様や主介護者様から不安な事や困っている事について伺う様にしている。また、サービス内容についても説明し、極力納得して頂いてから入居して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学の際より、家族様の困りごとや不安、疑問を伺い、サービスについても説明させて頂き、納得されてからの入居となるように努めている。また、入居者様の生活習慣や生活歴等を伺わせていただいたり、介護を任せるだけでなく、関わって頂ける様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の見学と本人様の面談に伺った際には悩み部分や希望を伺い作成させて頂いたプランについて、契約の際に説明をさせて頂き、納得して頂いてからの入居とケアの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前に面談を行った上でプランを作成しているが、入居後にその方の状況を見た上で、プランの変更も行い、役割をもってホームで生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍以降も面会は予約制であったりと頻回な交流は行っていないが、入居者様の生活歴や趣味等を伺い、プランに取り入れる際には連絡・報告し、ご納得頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前は、近所に住まわれている知人の方が面会に来られたり電話で連絡を取り合ったりされていましたが、コロナ禍以降は連絡もなくこちらからも連絡を行う事もなくなっている。	コロナ禍以降は、馴染みの関係性が途切れてしまっているが、今後は、馴染みの場所へ行ける等の取り組みを検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はフロアで入居者様全員が過ごされており、ほぼ全員で家事等の作業を協力して行っておられる。そのことで馴染みの関係もでき会話も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様の希望や相談は伺うように出来る限りフォローするよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムに合わせて起床時や食事の時間を意向に沿えるよう心掛けている。	本人の思いや意向を把握するために、本人、家族、今まで利用していた介護サービス事業所等から情報を収集し、個別の「基本情報シート」に記録して職員間で共有し、その人らしく生活ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の際に生活歴や生活環境等を伺い、利用されていたサービスや医療機関の情報も提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し残存機能に応じた対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットミーティングやスタッフ間でモニタリングを行いケアプランについて話し合っている。家族様にケアプランを送付し理解を求め希望があれば反映しながら作成している。	サービス担当者会議における、本人、家族、主治医、職員等の関係者の意見を反映し、介護計画を作成している。また、3か月に1回モニタリングを実施し、介護計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の中にプランも記載している為、プラン通りにケアが行われているか職員全員が把握できるようにしている。ミーティングで結果を見直し次回のプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族様の希望に沿い、状況に合わせたケアが行えるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で中止になっていたボランティアの方のイベント等を徐々に再開するようし、楽しみを持って生活していただけるよう支援する取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される方は馴染みのかかりつけ医に受診して頂き、希望の無い方は、提携している医療機関と提携し受診を行っている。	家族が通院介助をできない場合は、職員が受診支援をして、他科や馴染みのかかりつけ医が受診できるように配慮している。また、歯科受診については、往診対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問日に報告や相談を行う他、入居者様に状態の変化があれば都度相談し必要があれば受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、退院前はカンファレンスや電話で情報交換を行い早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な時期が来たら家族様と話し合いターミナルケアの説明を行い家族様、医療と連携支援に取り組んでいる。	入所時に、重度化・終末期のあり方について本人、家族の意向を確認し、ホームでの対応等について十分に説明している。その時期が近くなった場合、再度意向を確認して、主治医、訪問看護師等と連携してターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置やAEDの操作の研修は行っているが、実践経験が無い職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対しての避難訓練は施設内で行っているが、コロナ禍だったこともあり地域との協力体制が整っていない。	避難訓練は年2回実施し、そのうち1回は消防署職員の指導の下で実施しているが、地域との協力体制ができていないため、民生委員等を通じて、今後の対応を検討、災害における業務継続計画についても策定中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを保護し、その人を尊重した対応を心掛けケアに努めている。対応できていない職員には都度説明している。	各々の名前の呼び方については、本人の意向を尊重している。 また、新人職員においては、認知症介護について丁寧に対応方法を指導し、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、飲み物の種類や入浴の際の衣類の決定等、本人の希望に沿った生活を送って頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人本位の生活を送って頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った洋服の好み等を把握し、おしゃれに興味のある方は、本人に相談しながら身だしなみを整えて生活して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に食器を替える事で楽しみながら召し上がっている。一緒に準備を行う事は難しいが、片付けを行える入居者様には手伝って頂いている。	毎日の食事の用意や片付け等は、入居者の能力に応じて、職員と一緒にやっている。 また、行事食は、入居者が楽しめるように意向を反映した内容にしている。今後は、ラーメン屋、フードコート等の外食も検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記入している。水分が不足していれば小まめに摂取して頂き、食事量が不足していれば調理の工夫をしたり、医師に相談し栄養補助食品を活用する等しバランスよく摂取して頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、自身で口腔ケアが困難な方はこちらで支援させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けており、その人のパターンに合わせて定期的にパットの確認やトイレ誘導を行っている。	業務日誌を含め、個別の排泄チェック表があり、それに基づいて排泄パターンを把握し、トイレ誘導等を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ多く水分摂取を促し、食物繊維のある食物は積極的に摂っていただけるよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に沿った入浴時間や間隔で入って頂いている。決定が困難な方はこちらで調整させて頂いている。	個々の希望に合わせた時間に入浴している。身体機能が低下していることから浴槽に入れない入居者については、シャワー浴を実施している。	身体機能が低下していても、湯船につかりたいと希望される場合は、職員の入浴介助の負担軽減、安心安全性も含め、福祉用具の利用等による入浴環境の改善が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせ、日中に傾眠の強い方は昼間でも休んで頂くようにし、その人の体調に合わせた睡眠を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その人の症状を理解し、薬が処方される度に、薬剤師の説明を受け、服薬カードに目を通して薬について把握し様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴や趣味を確認し、その人に合った役割を持って頂き、張りのある生活を送って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で買い物や散歩が中止になっていたが、散歩等も再開し徐々に外出の機会を増やしている。	コロナ禍が緩和されてから、散歩の機会が増えている。天気のいい日は、中庭で昼食をする等の工夫をしている。今後は、外食も兼ねて衣類、百円ショップ等への買い物も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方にはして頂いている。 現在は該当する方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎをさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調やテレビの音量等に気を付けている。 季節感のある壁飾りや置物を展示し過ぎしやすい環境作りを行っている。	リビングには、季節を楽しめるように、入居者と職員が共同で作った掲示物等が飾られている。また、ドアの透明なガラスが入居者の混乱をまねいたことから、シールを張る等して、入居者が穏やかに過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは数か所あり、気の合った方同士で話せるテーブルとソファがあり思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた馴染みの物を持って来て頂き居心地よく過ごして頂ける空間作りを心掛けている。	個々の居室には、今まで使用していた衣類のキャビネット、ベッド等が配置され、手作りの物を飾る等して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等、場所の把握が出来るように張り紙をしたり、口腔ケアセットに名前を大きく記入する事で自身で行う事ができるように工夫する等自立した生活を送って頂けるよう支援している。		